

本を選ぶ

NO.455 2023年(令和5年)4月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643



●<ろん・ぼわん>桜の木の下で 続

●大学教員ノート 第9回

●近代出版の誕生から現代までの150年の軌跡

●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

桜の木の下で 続

コロナ禍は一旦落ち着いたのだろうか。5月には感染症法上の指定を2類相当からインフルエンザと同じ5類に引き下げられるらしいが、しっかりとした検証もすんでいないようなのに、疑問も残る。街中では今も入り口には消毒薬のスプレーが必ずと言っていいほど置かれていて、挨拶代わりにそのような施設もあれば、強制的な空気の漂う店舗もある。客席を区切るアクリル板などは撤去した飲食店がある一方で、薄汚れて不潔そうなビニールのカーテンがいまだにぶら下がっている飲み屋とラーメン屋があるのは珍しい光景ではない。

この新型コロナ感染症の流行が始まった頃に手指消毒用のアルコールが不足した際、日本酒の蔵元がお酒ではなく、消毒薬を製造して話題になった。この蔵元の働きかけに応じてキリンビールとアサヒビールがコロナ禍で抱えた在庫の生ビールを提供し、それを蔵元が自社の蒸留設備で消毒用エタノール（アルコール度数70度）を生産するというものだ。地元の県や県内4市に無償で提供すると新聞が伝えている。（日本経済新聞2020年5月8日／朝日新聞2020年5月10日）

酒と消毒と言えば、映画などで強い酒を吹きかけて傷を洗うシーンを思い出すが、実はこれは医

学的にはNGだそうだ。強い酒であってもアルコール濃度は不足している、却って傷口を不潔にして感染症の危険を招くことになりかねない。きれいな水で傷口を洗い流し、さらに石けんでよく洗うのが正しい処置だと先頃受けた外科手術の執刀医に教えられた。

小学校や中学校などの現場でも児童・生徒が怪我をしたときの処置に赤チンなどの消毒薬を塗るのは時代遅れ、あるいは誤った処置で、清潔な水で傷口に残る汚れや異物を洗い出すという応急処置が現在の外科治療の主流として一般化しているようだ。（西日本新聞夕刊2015年7月9日）

消毒薬を製造して寄付した蔵元は、実は日本酒だけではなくクラフトビールの大手で、ウィスキーやジンも製造・出荷している。クラフトビールブーム以来、ウィスキーなどの蒸留酒さらにはジンまでも小規模な酒造家によるクラフトブームが進行しているようだ。海外で高い評価を受けている銘柄も続出しているらしい。当方は下戸だから、少しばかりトーンを落とさざるを得ないが、先月紹介したトンカ豆は、お菓子やタバコに使われているだけでなく、男性用香水、ジンなどにも香り付けとして配合されている。

クラフトブームは酒に限らない。クラフトコーラもある。取り寄せてみたら、ビンがまるでジンみたいだ。裏のラベルを見てみると、コリアンダー・シナモン・カルダモン・ナツメグ・クローブ・コーラナッツ・生姜・トンカ豆・スターアニス・パニラビーンズと並ぶ。ここにもトンカ豆。（埜村太郎）

大学教員ノート 第9回

— The Rice Cycle ・ The Rice Culture —

石川 敬史

石川あ〜、やらないかあ〜

大学院時代にアルコールまわりで大変お世話になったA先生——独特の語尾が特徴——よりお声がけいただいた。B学会の第1回研究大会企画委員である。20代前半の私は大学図書館に勤務してまだ数ヵ月しか経っていなかった。図書館に「勤務」する以外に、学会に「所属」するという初めての感覚であった。重鎮の先生方とよく飲み、ともに仕事をさせていただいたことは忘れることはできない。

委員会に入りませんか？

レファレンスサービス業界の職人であるC大学のDさんからのお声がけである。私立大学の図書館関係のつながりで親しくさせていただいた。E協会のF委員会へのお誘いである。積極的でパワフルな図書館業界関係者との出会いが始まった。現場の現場に行き詰まっていた私は、実践の「道」の先に光がみえた感覚であった。「道」を牽引するF委員会の背中についていくことで精一杯だった。多くの現場の方々と出会った。

来年度から運営委員やりませんか？

確かG先生だったと思う。H研究会の運営委員へのお誘いである。拙い内容であるが、学部生時代の卒論、院生時代の修論と、これまでに図書館の現代史をテーマに格闘したお恥ずかしい経験があった。大学図書館の勤務の関係もあり、探究心は眼前の実践に移動しつつあったが、「研究」「学問」の世界に身を置くことができ、有意義な時間を過ごさせていただいた。

* * *

理事、研究大会委員長はいかがでしょう？

大学教員になって数年後、I先生からメールが届いた。長文である。かなり昔ではあるが、B学会の大会で初めて出会い、誠実で努力家であるI先生のお人柄に惹かれた。実はこのメールのつい数ヵ月前に、I先生には海外での図書館大会で大変お世話になった。以前、学会に「所属」という感覚を知ったB学会の理事へのお声がけであった。不安の連続であったが、とにかく周囲の方々のサポートをいただいた。多くの方々と再会、そして出会い——分野をこえた研究ネットワークの重要性を痛感した。

評議員よろしくね。

現在の勤務校で大変お世話になっている——アルコールも含めて——J先生からのお声がけである。大学教員になってからはJ先生のお誘いもあり、K学会の年会で口頭発表を重ねていた。そんなK学会の評議員へのお誘いであった。研究ネットワークの広がり、自分自身の研究の位置づけ、コンスタントに学会で口頭発表すべきことを学んだ。

あのさ〜、来年、実行委員長できるかな〜

あるとき、J先生より、ふとA先生を思い出す語尾で話しかけられた。K学会で毎年夏に開催される年会の実行委員長の打診である。勤務校での開催とのこと……。学生も含め、とにかく多くの方々に支えられながら汗を流した。準備の過程で多くの先生とのつながりをつくることができたことは、今でも続く大きな財産である。その後、K学会 (= J先生) から、学会誌の編集委員会、広報委員会委員長……。そして学会の舵取りを行う運営委員会の末席に名を連ねてしまった。

久しぶりですね。編集委員会、いかがでしょうか。

久々にL先生からメールがあった。M学会が新しく発足するとのこと。ついては学会誌編集委員会へのお声がけであった。第1号の刊行ということで、投稿規程や査読などの「仕組み」、書式などの「レイアウト」づくりに注力した。メディアに登場する著名な先生方との出会いもあった。わずかな時間ではあったが、現在では査読・閲読へのお声がけをいただくこともある。ありがたい限りである。

ところで幹事でできますでしょうか。

研究面で大変お世話になっているN先生からお声がけいただいた。伝統あるO学会の研究担当幹事である。O学会でも毎年秋頃に開催される研究大会にてコンスタントに口頭発表をしていた。実はO学会では、口頭発表後、分科会ごとに登壇した発表者全員での討議の時間がある。研究に対する背景や視角、研究課題が問われることに大きな魅力を感じた。まさに自分自身が試されるような時間は有意義であった。議論を重視するO学会だからこそ、理事会では本質的な議論が交わされていたことを覚えている。短い任期であったが、「学界」の動向に触れることができ、大きな「学会」を動かす仕組みを知ることができた。

評議員に選ばれました。

P研究会からのメールである。会員の投票・選挙によって関東地区の評議員に選ばれたとのこと。とにかく驚いたことを覚えている。これまでP研究会のQ研究グループにて図書館史調査に加わらせていただき、学会誌にも執筆させていただく機会があった。図書館の「現場」と教員の「研究」とが交わっている伝統的なP研究会である。その後、理事に推薦されたが、コロナ禍であり十分な仕事はできなかった。任期を終え、大変心苦しい限り……と思っていたところ、事務局長のR先生にお声がけいただいた。

お引き受けいただけますでしょうか……。

学会誌の編集委員会委員長である。大きな仕事がまわってきた。

* * *

今回も自分を見つめ直す時間が長くなってしまった——学会や研究会に関わるお仕事の依頼である。大会参加、口頭発表、研究会の登壇、学会誌への投稿といった「参加」のみならず、大会運営、広報、学会誌編集、予算、理事会など「参画」というお役目にお声がけいただく機会に恵まれた。私のような者に——とにかく感謝である。こうした学会や研究会の運営に携わらせていただく時に思うことがある。それは「研究とは何か」ということである。

米の循環は、物質やエネルギーの単なる過程ではなく、文化の創造と蓄積の過程であり、日本文化は、米の循環をその中心として、多くの方法で定式化されてきた。

日本の建築史家の伊藤鄭爾が、かつて「The Rice Culture」の章に刻んだ一節である（日本語訳は石川）。この図書のタイトルは『THE RICE CYCLE』。副題にはThe Grain that Created a Cultureとある（JETRO / 1974）。餅、団子、煎餅、酒、そして藁、穀、さらには労働、建築、経済単位、土地、規格、相互扶助、儀式、美術——米は伝統的文化を形成する重要な要因の一つであるという。この『THE RICE CYCLE』、実は大学図書館員時代、伊藤の声をカセットテープで聞く音声授業があり（伊藤研究室のOBGの方々が主催）、お誘いいただいたことがきっかけである。この文脈に「研究」を当てはめるとどのように語ることができるであろうか。私たちは人工環境に適応しすぎていないであろうか。まだまだ私は「研究とは何か」を述べる立場ではないが、目先の慌てた業績ではなく、研究における「文化の創造と蓄積の過程」を一人の人間としてじっくりと読むことを忘れてはならない。

（いしかわ たかし：十文字学園女子大学）

近代出版の誕生から現代までの150年の軌跡

—『明治・大正・昭和の出版が歩んだ道—』—

能勢 仁

言論抑圧

明治・大正・昭和100年を通じて二つの大きなエポックがあった。一つは発禁本取締りの多発である。中でも「横浜事件」は出版史上最大の言論弾圧事件であった。日本評論社、岩波書店編集者や美作太郎氏、小林勇氏、藤川覚氏らが逮捕された。事件は横浜で起きたのではなく、特高の頭の中で起きた事件であった。

事件の導火線になったのは、雑誌「改造」の1942年の8月号と9月号に掲載された細川嘉六氏の論文「世界史の動向と日本」である。細川論文は厳しい検閲を通過した記事であったが、谷萩大本営報道部長が、細川論文を「日本読書新聞」の書評「戦争と読書」で「共産主義実現の必然性を示唆するもの」と非難、警視庁特高課が、新聞紙法違反容疑で細川氏を検挙した。同じころ神奈川県特高課はアメリカ共産党のスパイ容疑で検挙された満鉄調査室の西澤富夫の家宅捜索で一葉の写真を発見した。富山県・泊町（現朝日町）で撮られた浴衣姿の記念写真が事件の発端となったのである。

そのスナップ写真には、国際政治学者の細川嘉六氏を囲んで、当時の「中央公論」や「改造」の編集者ら7名が浴衣姿で写っている。このスナップ写真を神奈川県特高課が「共産党再建準備会議」とでっち上げ、治安維持法違反容疑で、いもづる式に出版関係者ら60余名を検挙し、横浜市内に留置、残虐な拷問により自白を強要された結果、30余名に有罪判決、獄死者4名等となる悲惨な事件となった。

本書『明治・大正・昭和の出版の歩んだ道—近代出版の誕生から現代までの150年の軌跡—』（能勢仁・八木壯一共著/A5判/出版メディアパル/2022年）には明治、大正、昭和に分けて発禁本事情と言論抑圧が詳しく書かれている。

再販制度

エポックのもう一つは、第二次世界大戦後、再販制度が設けられたことである。言葉を換えて言えば、本の定価販売の励行の法制化である。出版を産業と見るかどうかについては意見の分かれる所である。出版業界は中小企業の連合体であり、株式を公開している出版社は出版社全体の0.006%である。最近でこそ、資本構成が変わりつつあり、外資の参入もある。しかし資本と人的構成は同族的、血縁的で、経営も世襲制が多くみられる。どう見ても近代産業社会に形成されているとは言えない。序々に近代化に向かう傾向は見られるが、大出版社と中小出版社、大型書店・チェーン書店と零細個人書店の格差は激しい。

出版業界は両極端の企業が存在しながら、今日に至っている。これは企業格差に関係なく経営が維持出来る法的保護があるからである。大企業、大資本の安売りを許さない経済環境である。その制度こそ「再販制度」である。

1953年（昭和28）9月独占禁止法が施行され、法第24条の2（再販売価格維持契約）の規定が設けられ、出版物の法定再販商品として適用除外となり定価販売が認められた。

1956年（昭和31）4月再販売価格維持契約委員会が出版4団体で構成・発足した。

1978年（昭和53）10月橋口公取委員長が2大取次の寡占問題と優越的地位の濫用の疑いがあるとして、出版物再販制の見直しが発表され、出版業界は騒然となった。

1980年（昭和55）10月公取委の指導により、新再販制度（部分、時限、任意再販）が実施された。「定価」と表示した書籍のみが再販対象商品と決められた。

1998年（平成10）公取委は「著作物制度の取り扱いについて」継続検討を必要とする見解を発表



した。

2001年(平成13)公取委は再販制度の当面存置を発表、今日に至っている。尚この際運用の弾力化を公表、バーゲンブックの普及を示した。

現在、再販制度があたかも空気の如く扱われて、業界の権利、財産であることを忘れてる。猛省すべきである。

明治～昭和の出版の軌跡は激動の連続である。本書の姉妹書に「昭和の出版の歩んだ道」「平成の出版が歩んだ道」(いずれも出版メディアパル)がある。本書で三部作が完成した。日本の出版150年の歴史が俯瞰できる。併せてご覧下さい。

(のせ まさし:ノセ事務所)



■小誌「本を選ぶ」は1985年5月に月刊誌として創刊して以来38年に亘って全国の図書館にお届けして参りました。一度も欠号を出さず、合併号も出すことなく今日に至ります。これも偏に出版社各位と図書館のおかげと心より感謝申し上げる次第です。

■その間、昭和から平成に至る技術革新の波は様々な分野で在来の方式の交代を迫りました。ワードプロセッサが登場すると、ほどなく印刷の現場も活字印刷や写真植字から、DTP(デスクトップ・パブリッシング)へと様変わりし、編集者が手許で編集するようになったのです。令和になると、若い読者を中心にウェブへの移行が本格化しました。(お)

DMかたろく

日本理学書 新刊目録

2023 A5判/44頁

- ◆会員出版社9社の新刊、約130点を紹介。
- ◆科学一般/数学/物理学/化学/天文学・宇宙科学/地球科学・地学・地質学/生物科学・一般生物学/植物学・動物学の8部門に分類。
- ◆URL <http://www.rigaku.gr.jp>

日本理学書総目録刊行会

<http://www.rigaku.gr.jp>

Think Asia

NO.51 2023 spring-summer

- 南方特別留學生が残した戦後の軌跡……伴武澄
- ワタラッパン……西井和弥
- パンダ来日50周年……家永真幸
- 台湾の鉄道
- レールがつなぐ断絶の歴史、郷土の記憶……吉村剛史
- アジアのチャイナタウンを巡る 第八回
- シンガポールのチャイナタウン……山下清海
- 画像石の中の人々……丁美堂

一般財団法人 霞山会(文化事業部)
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-47
電話:03-5575-6301 / FAX:03-5575-6306
<https://www.kazankai.org/>

ESTRELA

■2023年4月号
No.349/4月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕公的統計マイクロデータのオンライン利用

■公的統計マイクロデータ研究コンソーシアムについて

高部 勲(立正大学データサイエンス学部教授)

■オンラインの仕組みと運用

総務省統計局・(独)統計センター 統計データ活用センター

■岡山大学「公的マイクロデータオンライン施設」運用開始!

張 星源(岡山大学名誉教授(前経済学部長))

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

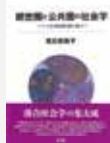
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階
TEL: 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

親密圏と公共圏の社会学

ケアの20世紀体制を超えて

落合恵美子 著

「成熟社会」にふさわしい社会システム構築のために、社会と社会科学から排除された生とケアを取り戻し、「生を包摂する」総合的な社会理論を構築する。A5判 3850円



記憶を語る、歴史を書く

オーラルヒストリーと社会調査

朴 沙羅 著

市井の人の証言は、歴史的な資料(史料)としてどのような意味で信頼に足るのか。膨大な学的蓄積と著者自身の実践を通してオーラルヒストリー/口述史を捉え直す。



四六判 2530円



有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は税込

ゴースト・ワーク

グローバルな新下層階級を
シリコンバレーが生み出すのをどう食い止めるか



メアリー・シグレイ
シンダール・タスリ

GHOST WORK

柴田裕之訳 成田悠輔 監修・解説

あらゆるものがオートメーション化する世界の背景で増加する見えない労働(者)とは。文化人類学×計算社会学から、猛烈なスピードで変化する「労働」を考える。 2420円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel. 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

井頭昌彦 編著

質的研究アプローチ の再検討

人文・社会科学からEBPsまで 相連を
超え総合的な理解へ。 5500円



第一東京弁護士会災害対策委員会 編

災害法律相談 Q&A

東日本大震災以来、蓄積されてきた実務
的知見の到達点。 4180円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

厳しい時代を「やさしさ」で武
装して生き抜くために!
マウントや偏見など無意識の暴
力がはびこる日常生活を、相手
の立場で考える想像力=「やさ
しさ」を持って見つめ直し、私
を立ち上がらせた大切な感情の
集積。



韓国で大反響のエッセイ!

四六判 / 204 頁
定価 2,090 円 (税込)



多情所感

キム・ホンビ [著]
小山内園子 [訳]

やさしさが置き去りにされた時代に

白水社

101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24
www.hakusuisha.co.jp/ tel.03-3291-7811

データにのまれる 経済学

6月
中旬
刊行!

●予価 2200円(税込)
ISBN 978-4-535-54038-5

薄れゆく理論信仰

「データ至上主義」は

前田裕之 [著]

経済学に何をもたらすのか?

理論偏重から実証分析重視へと変貌を遂げた経済学。その変貌の経緯
と、理論と実証の狭間で苦闘してきた経済学者たちの足跡を追う。

認知症の ケアに生かす精神病理 こころを読み解く

本人のところに注目するアプローチ

高橋幸男・上田諭・水野裕・大塚智丈・齋藤正彦 [著]

●予価 2200円(税込) ISBN 978-4-535-98529-2 ●6月中旬刊



日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nippon.co.jp>

世界20カ国で翻訳! イギリス国王が愛する絵本
イギリス国王チャールズ3世が立ち上げた「テラ・カルタ (地球憲章)」を
世界中の33人のアーティストの絵とともに学べる絵本!



SDGsの
学びに最適!

未来をつくるのは
わたしたち
自然、人、地球をまもるおやくそく

クリストファー・ロイド
イギリス国王チャールズ3世
茶田花之

世界中の33人のアーティストによる絵とともに



定価3,300円(税込)

32 240 mm × 260 mm / 上製本 64 頁 ISBN:978-4-634-14003-5 C0036

山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13
<https://www.yamakawa.co.jp/>

トランスジェンダー問題

議論は正義のために ◎2200円

ジョン・フェイ 著 高井ゆと里 訳 清水晶子 解説

オックスフォード 哲学者奇行

児玉聡 著 ◎2420円

ダイエットはやめた

私らしさを守るための決意

バク・イスル 著 梁善実 訳 ◎1650円

14歳からのSDGs

あなたが創る未来の地球

水野谷優 編著 園井修、井本直歩子、
林佐和美、加藤正寛、高木超 著 ◎2200円



明石書店 | 〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-9-5
TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174 (税込)